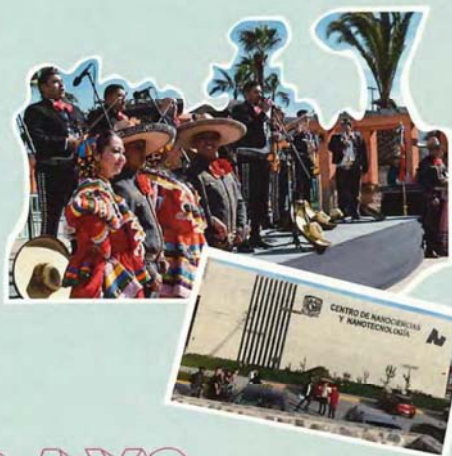


# 寄港地活動

横浜を出港してから約2週間、ようやく寄港地のメキシコのエンセナーダに入港しました。現地の方から温かい歓迎を受け、3日間の寄港地活動が始まりました。メキシコの過去参加青年が中心となり、プログラムの作成や当日の運営もしてくれました。

## DAY1

- 8:00 エンセナーダ入港
- 10:00 歓迎イベント
- 12:30 リビエラ文化センター
- 15:30 カラコール科学博物館  
&メキシコ国立自治大学
- 19:00 船上レセプション



## DAY2

- 10:30 ティファナにて国境視察
- 11:30 ティファナハイパー  
フォーメーションセンター
- 14:00 ティファナ文化センター
- 19:00 帰船



日本を出航してから二週間が経ちました。

にっぽん丸がエンセナーダの港へ着岸する様子をひと目見ようと早起きをして甲板に出ると、既に大勢の参加青年がその時を待っていました。荒々しい山肌と異国の匂いが日本から遥々太平洋を横断したのだという事を実感させ、非常に感慨深い瞬間だったのを覚えています。歓迎会で披露されたメキシコの民族舞踊は次第に周りを巻き込み始め、思わず自分も参加しました。昼食(もちろんタコス)を食べた後には、素晴らしいオーケストラの演奏に合わせてまた皆で踊りました。

二日目にはアメリカとの国境を訪れ、この壁が「二つの国を分断している」のだという事実に直接触れました。三日目にはボランティアとして参加してくれた現地の大学生との交流や街の散策を通してメキシコの「リアル」を体験しました。

三日間という短いあいだに五感をフル活用して吸収した沢山のことは、今でも鮮明に記憶に残っています。

三船 大制



# SWY 用語紹介

プログラムを通して使われる独自の用語を紹介します。  
本冊子や、帰国報告会で出てくるものもあるので、ぜひ参考にしてください。

## SWY(すわい)

Ship for World Youth の略称であり、「世界青年の船」事業の通称。

## サマリー・フォーラム

コース・ディスカッションで学んだことをコースごとに全員に向けての発表するイベント。

## PY(ぴーわい)

Participating Youth の略称であり参加青年の総称。

## フェアウェルセレモニー&ディナー

船上プログラムで最後に行われる壮行会。

## JPY(じゅーぴーわい)

Japan Participating Youth の略称であり日本参加青年の総称。

## キャビンチェンジ

船上プログラム中に一回行われる部屋(キャビン)とそのキャビンメイトの入れ替え。

## OPY(おーぴーわい)

Overseas Participating Youth の略称であり外国参加青年の総称。

## スポーツ&リクリエーション

船上で計2回、レター・グループ対抗で行う運動会のようなプログラム。

## NL(えぬえる)

National Leader の略称。各参加国に対し1名選ばれる。

## ANL(えーえぬえる)

Assistant National Leader の略称。NLとPYを繋ぐ役割を担う参加青年。各参加国から2名ずつ選ばれる。

## NP(えぬぴー)

ナショナルプレゼンテーション(National Presentation)の略称。

## デリゲーション

各参加国団のこと。

# 船上活動



# 寄港地活動



# ナショナル・プレゼンテーション



◀ペルー



▲ブラジ

ナショナル・プレゼンテーション(通称NP)は船上プログラムの中でも青年が特に力を入れる一大プログラムです。30分間で自国の文化や歴史を精一杯に伝えます。どの国のパフォーマンスも魅力的で迫力がありました。



▲ケニア



▲日本



◀エジプト

フランス▶



## <日本のNPの演目>

和太鼓、ムックリの演奏  
アイドルダンス、日本舞踊  
よさこい、盆踊り  
書道パフォーマンス  
武道グループ

## 武道グループ

武道グループは元々、伝統的な武道をそれぞれ披露する予定でしたが、集まったメンバーはみんなが武道経験者ではなかったため、全員で参加するための方法を模索しました。そんな時一人から、竹刀を使ったダンスの提案があり、武道グループ全員で同じものを作ることになりました。遠距離の中、主にNP委員の二人で配置や曲の長さの調整、ダンスの簡略化などをし、動画を共有し各自練習をしました。本格的に練習できたのは乗船前になってからで、NP本番までの朝と夜はほぼ練習に当てました。船酔いや他の自主活動もあり、メンバー全員が揃って練習できる時間はほぼ無く、ダンス自体かなり激しく難しいので、短時間で覚えられるのかと焦燥感を覚えました。本番後、参加青年たちからの歓声を全身に浴び、メンバー全員が達成感であふれました。集団で感じる達成感の大きさとその力を感じられた瞬間でした。

桐原 萌恵



## レター・グループ



レター・グループとは、日本参加青年11名程度、外国参加青年11名程度からなるグループのことです。AからKの11グループあり、全プログラムを通して一番頻度の多い活動単位です。

各グループにナショナル・リーダーが一人います。レター・グループでは、朝の体温チェックや、夕食前に行われるレター・グループミーティングでの情報共有などを行います。チームのような、家族のような存在です。

## コース・ディスカッションとは？

分野の異なる七つのコースに分かれて、ファシリテーターのリードで、様々なディスカッションが行われます。本プログラムの柱の一つで、陸上・船上研修を通して全5回行われました。プログラムの最後にはディスカッションの成果を発表するサマリー・フォーラムが行われます。

※④⑥⑦は事業概要と参加青年からの感想です。



### 1 文化遺産の保護コース

各国の文化遺産保護に焦点を当て、それらに取り組む文化的あるいは創造的な活動を取り上げた。文化遺産保護に対する意識を高めるとともに知識を掘り下げ、視野を広げることを目的とする。

### 2 平等な社会におけるテクノロジーコース

AI (人工知能) やビッグデータ、グローバルソーシャルメディアなどの最新のテクノロジーについて、その恩恵や、可能性と限界について理解する。日々進化するテクノロジーを注意深く分析、適切に活用、時には活用しないことを選ぶことができるようになることを目指す。

### 3 健康とウェルビーイングコース

青年リーダーのメンタルヘルス (心の健康) と、ウェルビーイング (身体的、精神的、社会的に満たされている事) について正しく理解し、心の健康を向上、維持するための学術的知識を身につけウェルビーイングを促進するスキルを磨く。

### 4 グローバルシティズンシップコース

地域社会や国際社会により良い変化を生むために、自分がどうあるべきか、参加青年が自身の価値観、志向、日々の実践を振り返り、自己研鑽することを目的とする。異文化との出会いを通じてディベートや課題解決の実践から学び、有言実行ができるようになることを期待する。



合計 11 国から集まった総勢 20 名以上の参加者と共に「世界を牽引するリーダーとは」という問いについて考える本コースでは数えきれない程のことを学びさせていただきました。正直このコースに参加する前は、「リーダー」というものがピンとこず、何処か他人事のように感じていましたが、講義を通じてリーダーのマインドセット・言動を学び「自分でもリーダーになれるのだ」と心から思うことができるようになりました。それは互いが受容・鼓舞し合うこの世界が目指すべき理想状態のようなあの環境であったからこそ得ることができたと思いますこの講義で学んだ「心を開く」「思いやり」「共感」の3つを胸にこれからも働いていこうと思います。

(荻内雄生)



アトラクティブ・ジャパンでは、全国各地の特産品を持ち寄り外国参加青年だけではなく、日本参加青年にも地域の魅力を知ってもらうことを目的として、開催しました。特産品等は参加者が事前に地元の企業に働きかけ協賛を募って頂いたものがメインでした。最終的には23の府県から食べ物や特産品が集まり、また観光名所の案内なども積極的に行いました。

主催していく中で、特に地方の参加者の地元を紹介する強い気持ちを感じたのがとても印象的でした。運営関係者は合計 50 名以上となり、事前に情報を整理し共有することが大変でした。また乗船後はインターネットがないので、情報共有がより困難になり、多少のトラブルもありました。それでも、イベント当日は日本参加青年が一丸となり各ブースの飾り付けなど工夫を凝らして行いました。

また外国参加青年に浴衣の着付けを行い、日本の音楽を流すなど、みんなで力を合わせることでイベントは大変盛り上がり、無事イベントを終えることができました。

内藤 裕二



- ・柔道教室
- ・つまみ細工ワークショップ
- ・タレントショー
- ・カラオケナイト
- ・LGBT talk
- ・カポエラ
- ・成人式
- ・スリランカダンス
- ・メディテーション
- ・ヨガ教室
- ・ジブリコンサート
- ・Sake Bar
- ・Fridays For Future on board

